

京都の手作り財布

吉田一貴

(2021 年入学 鈴木ゼミ 5 期生)

ブランド「点と線」

ブランド「点と線」は京都に工房を構える。工房 artigiano 株式会社の代表取締役兼デザイナーの務めている縄田真悟さんによって設立された会社のブランド名である。元々、縄田さんは手作り作家として活動されていた。縄田さんは設計をすることが好きで、いろいろなモノの設計をされていた。しかしながら、5 年～10 年ほど経ってもなかなか商売として確立することが出来ず収入もない中、手作り作家として続けられていた。縄田さんはレザー系の商品を手作りし、製作したモノをお店などで陳列してもらい売るのではなく、自分の手で直接お客さんに売っていた。しかし、縄田さんの感触としてなかなかお客さんに響かなかったというのが現実だったそうだ。しかし、縄田さんは長い間、世間に自分の商品が響かなくても一生懸命に作り続けたことで、経験値が溜まった。失敗した経験、成功した経験が積み重なり、新たな型紙や形を作ることのできるきっかけとなった。そして、現在のブランド「点と線」で成功を取められている。



コンセプト

工房 artigiano 株式会社のコンセプトはホームページに掲げられている。「5 年後、10 年後の姿をデザインすること」と「大量生産、大量消費の中で」という二つだ。

現在、商品として並ぶものは高級ブランド品も含めて、その多くが売るときにどれだけ良く見えるかに重点が置かれている。しかし、いろいろな型紙や製法で作りながら、世の中にある商品の長所や短所から縄田さんが感じられたことは、本来革職人が目指しているモノは「5 年後、10 年後の完成度」だということだ。これは、一つ一つの型紙、製法に対して「なぜこのような形にするのか、なぜこんなやり方をする必要があるのか」を考えた時に、どの製法にも意図がメッセージかのように隠されている。縄田さんはお客様に古いブランド品をよく見せてもらうそうだ。その時に感じられることが、10 年以上前のブランド品は

本当に良い作りのものばかりとのことだ。これは、私たちが現在も実際にエルメスやグッチなどのブランド品を使っていることが、その証明ともいえよう。しかし、今売られている商品は、同じ品でも10年以上前とは明らかに違うようだ。同じメーカーのブランド品であったとしても、今では裏に布を多用し、表の革の代わりに化学繊維を使っている。これはブランド品がより身近になった影響ともいえる。昔は買う側の知識や見る目の良さがあるため、生半可なモノを提供できない。しかし、現在では生地やデザインより、ブランドのロゴしか見ずに買う側にも問題があるだろう。しかし、ブランドや高い物だから良い、と考えるのではなく、皆が「ブランド物で高いものだろうにそんな作りの悪いものを使ってるの?」と鼻で笑うくらいになれば、ブランドも粗雑なものを作れなくなるのではないかと縄田さんは考えている。彼が求めているものは決して見た目ではなく、使いやすさや使用後の姿をデザインすることを目標に製作されている。

私たちの暮らす現代では、当たり前のように大量生産が出回っている。もちろん相対的に品物の割には安く仕上がるが、多くの場合は生産性を重視したものづくりに偏っている。生産性→デザイン→機能性、といえる。これに対して縄田さんの工房では、機能性→デザイン→生産性、といった優先順位で何よりも機能性を優先している。時にはオリジナルの技法を見つめながら、妥協なくそれを搭載できるように努力されている。

「点と線」の作品

(1) collet

縄田さんが一番最初に製作された財布である。ミニウォレットとしてイメージしてもらおうと良い。2017年から2018年頃に製作されたものである。縄田さんがこの財布に求めたのは「小ささ」ではなく「効率」だ。小さい「設計効率」と使いやすい「使用効率」、沢山入る「収納効率」この全てを実現出来るように設計されている。縄田さんの「点と線」のブランドの作品の中で原点となる作品でもある。

(2) usuha

これは、二番目となる作品で先ほどの collet は「究極的に小さい財布」にするための設計である。しかし、今回の財布では collet とは双壁を担うような「究極的に薄い財布」を作りたいという思いで製作された作品である。しかし、この作品は作るうえで4つの欠点が発覚した。それが「小銭を入れにくい」、「財布を閉めにくい」、「お札を入れにくい」、「カードが引き出しにくい」部分である。だが、これは次の作品の進化につながる大きな作品にもなっている。



(3) usuha2

この作品は前回の usuha の欠点を改善した作品である。まず「小銭を入れにくい」部分は 6 ミリのショートフラップを追加することで開口幅を延長し、小銭を入れやすくしている。「財布を閉めにくい」所は金具ではなくレザーホック式を採用することで簡単に開け閉めできるようになっている。「お札を入れにくい」部分は中央部に切り込みを入れ、札入れの幅を 1 万円札プラス 12mm にすることで改善して、薄い財布を実現している。



(4) usuha3

最新の作品は前回 usuha2 では、改善できなかった「カードが引き出しにくい」部分とさらに、財布の薄さを追求した設計となっており、今までの usuha シリーズの集大成といえる。まず、「カードが引き出しにくい」部分は特許申請構造で本体を閉めた状態でゆったりとカードを選べるように設計し、小銭入れの側面を押し込むことでストッパーが外れてカードが出し入れできるようにした。小銭入れの縮小化、必要最低限の縫い目によって究極の薄さを実現した財布となっている。



まとめ

縄田さんの作品はどれも機能面に優れていてとても便利である。機能面以外の耐久性といった部分でも usuha3 では馬のお尻の内側にある硬い層で、一頭からほんの少ししか取れないとても希少な革を使われている。これにより何年も使えるまさに自分のコンセプト「5 年後、10 年後の姿をデザインすること」を体現するかのような作品を作られた。もし、興味がある方は、クラウドファンディングやオンラインショップで購入を検討してみてはいかがだろうか。かばんや名刺入れなど財布以外の作品もあるのできっとお気に入りのものが見つかるだろう。

参考文献

・工房 artigiano 公式サイト

<https://www.koubou-artigiano.com/>

・Makuake collet クラウドファンディングサイト

https://www.makuake.com/project/collet/?utm_source=default&utm_medium=widget&utm_campaign=widget

・Makuake usuha クラウドファンディングサイト

https://www.makuake.com/project/usuha/?utm_source=default&utm_medium=widget&utm_campaign=widget

・ CAMPFIRE usuha2 クラウドファンディングサイト

https://campfire.jp/projects/view/322138?utm_source=cf_widget&utm_medium=widget&utm_campaign=widget

・ CAMPFIRE usuha3 クラウドファンディングサイト

https://campfire.jp/projects/view/501120?utm_source=cf_widget&utm_medium=widget&utm_campaign=widget